

東日本大震災・原子力災害伝承館

資料2

令和5年度 事業実績



目次

1. 東日本大震災・原子力災害伝承館運営状況

1-1. 入館者数推移

1-2. 学校団体利用状況

1-3. 資料収集・保存

1-4. 展示

1-5. 語り部

1-6. 研修

1-7. 調査・研究

1-8. イベント

1-9. 広報・誘客

1-10. 視察受け入れ

1-11. 収益事業

伝承館は、東日本大震災と福島第一原発の事故による未曾有の複合災害の記録と教訓を、国や世代を超えて継承し、復興に向かう福島の今を発信するため、令和5年度は特に以下の方針のもと取組を進めてきた。

●令和5年度の基本方針

1. 引き続き新型コロナ対策を講じつつ、魅力ある企画展等を実施
2. 福島県における複合災害の正確な情報発信と風化防止
3. 調査・研究の推進と福島国際研究教育機構との連携体制構築



(1) 入館者数の状況

●**令和5年度 93,759人** ※R5目標：75,000人
(団体：45% 個人：55%)

○**令和4年度 80,119人** ※R4目標：60,000人
(団体：47% 個人：53%)

○**令和3年度 58,271人** ※R3目標：50,000人
(団体：40% 個人：60%)

●**開館からの累計 275,899人**
(団体：41% 個人：59%)

(2) 教育旅行による入館状況

開館当初から教育旅行の訪問先として誘致に取り組み、県内外の多くの学校に来館いただいている。

●**令和5年度 延289校 16,824人**

- ・県内の学校：延べ155校 8,843人 (53%)
- ・県外の学校：延べ134校 7,981人 (47%)

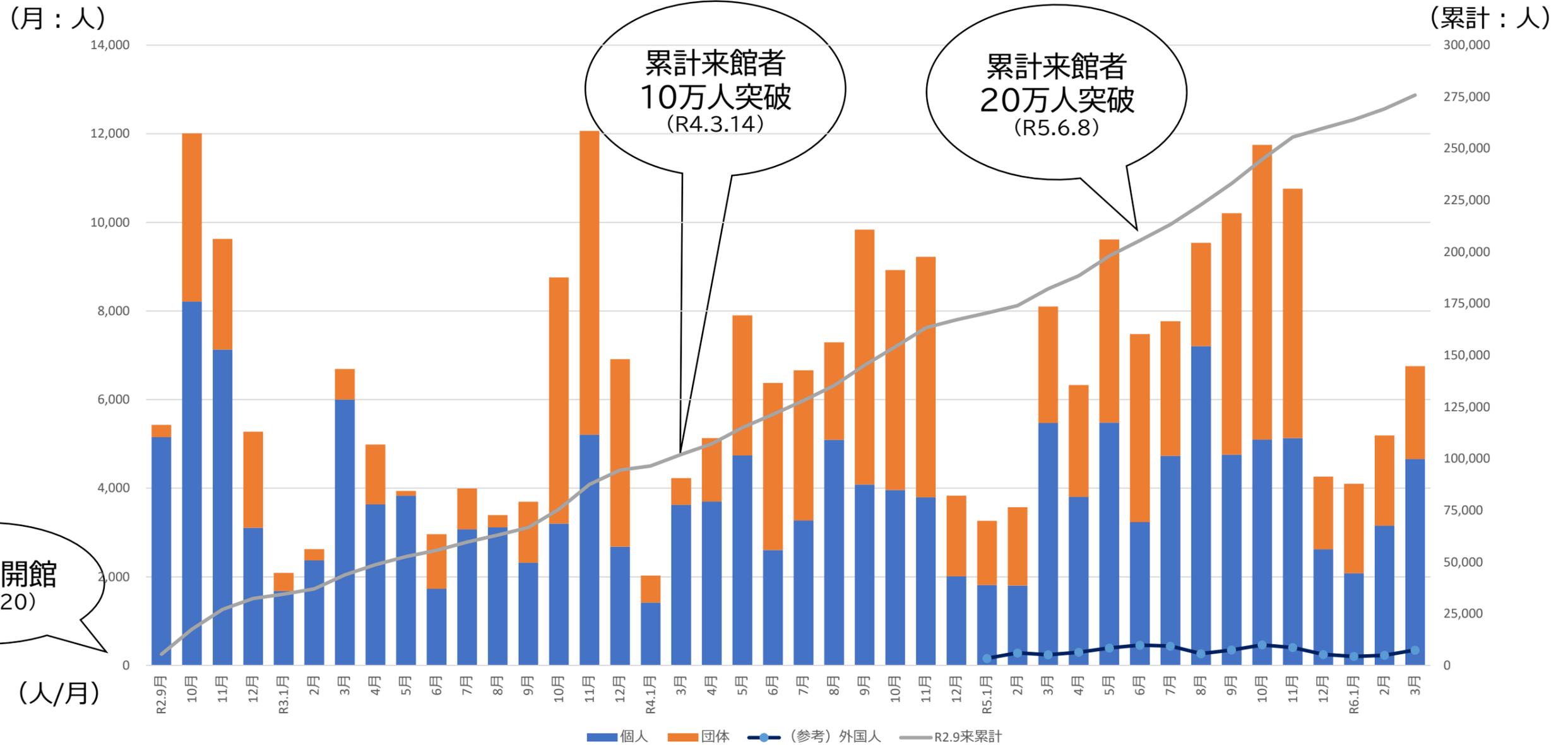
○**令和4年度 延313校 18,277人**

- ・県内の学校：延べ191校 11,344人 (62%)
- ・県外の学校：延べ122校 6,933人 (38%)

○**令和3年度 延269校 17,105人**

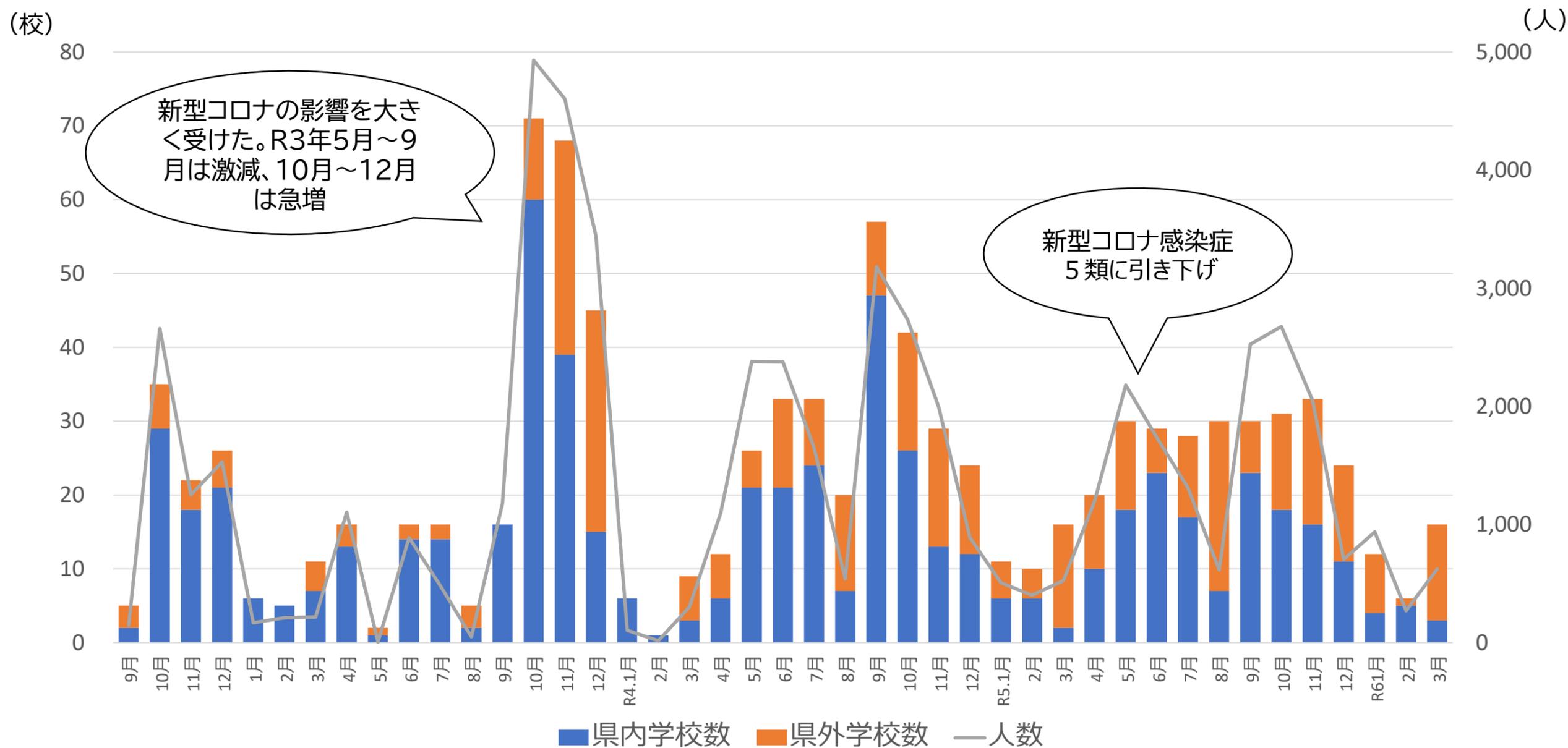
(県内の学校：68%、県外の学校：32%)

1-1 入館者数推移



- ✓ **来館者数** : 新型コロナウイルス感染症による外出自粛が各所で実施される中のR2年9月に開館。新型コロナウイルス禍においても来館者数は堅調に推移していた。R5年5月、同感染症が5類に引き下げられたことで、R5年度にようやく制限のない年度を迎えた。累計来館者数はR4年3月に10万人、R5年6月に20万人に到達した。
- ✓ **インバウンド** : R4年10月から新型コロナウイルス感染症の水際対策が大幅に緩和された。外国人の来館者が目立つようになったため、参考としてR5年1月から目視での外国人来館者数をカウントしている。(R5年度：参考数値 4,086人)

1-2 学校団体利用状況



- ✓ **R3年度：17,105人** 新型コロナウイルスの行動制限が入館者数に大きく影響した。
- ✓ **R4年度：18,277人** 行動制限がなく、入館者が前年度比で増加した。
- ✓ **R5年度：16,824人** 平時モードとなり、前年度比で県内の学校からの受け入れ減、県外からの受け入れ増。合算では県内減を補えない状況となっている。

1. 資料収集

(1) 収集点数：6,007点
累計で約29万点の資料を収集。

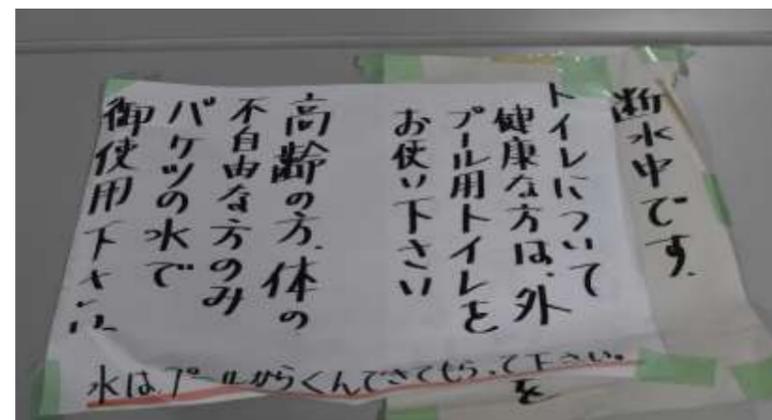
(2) 収集者件数：35件（重複含む）

(3) 収集内容

- ・県立大野病院の調査・収集
- ・浪江町立津島小および中学校の調査・収集
- ・特養老人ホーム「せんだん」の調査・収集
- ・大熊町の石碑等フロッタージュ作品
- ・個人線量計（25種類）
- ・国土地理院が持つ被災地域の空中写真・地形図
- ・被災地域の写真および映像等

(4) 被災体験収集

- ・証言収集（JR貨物による石油臨時輸送、避難時の証言など）
- ・被災体験（手記や証言）を継続的に募集



避難当時使われていたもの（左：津島小 右：大野病院）



フロッタージュ作品の一例



JR貨物



消防士



被災者の方



インタビューによる証言収集



被災体験の募集チラシ

1-3 資料収集・保存

2. 資料貸出

- (1) 福島県名古屋事務所への画像パネル貸出
- (2) 福島県浪江町への画像パネル貸出
- (3) みやぎ津波伝承館への画像パネルおよび映像資料の貸出
- (4) 福島中央テレビへの写真貸出
- (5) リプルン福島への画像貸出
- (6) 国見町立県北中学校への画像貸出
- (7) 京都大学経済研究所先端政策分析研究センターへの画像貸出

3. 資料閲覧室の充実

- 2022年1月オープン（利用時間は伝承館の開館時間と同じ）
- 約**2200冊**を所蔵（2024年3月現在）
 - ・震災関連の一般図書、児童書（主に絵本）、専門書、専門分野の辞典・辞書、各自治体の震災記録誌および広報誌等を配架
- 2024年1月から**伝承館の図書データベースを国立国会図書館DBひなぎくと連携**
→国立国会図書館のWEBサイトから伝承館収蔵図書の検索ができるようになった。



資料閲覧室



図書データベース検索画面の例

企画展示室にて開催

1. 企画展「モノが語る原子力災害」 (R5.7.14～11.13)

帰還困難区域内にあった通行規制看板や、旧オフサイトセンターのホワイトボードなど、様々な初公開資料を展示し、原子力災害を深掘りした。

- (1) 関連イベント「被災地フィールドワーク」開催（8月6&19日、9月10日）
- (2) 関連イベント「霧箱を作ろう」開催（8月20日）

普段は目視できない放射線を観察できる「霧箱」の制作教室



2. 企画展「人が語る原子力災害」(R5.11.23～3.25)

原子力災害に関する個人の体験を動画や写真、実物資料、当時の気持ちや状況を表現した「語りパネル」で幅広く紹介。1月24日からの会期後半には福島県出身の若手俳優 富田望生さん、横田龍儀さんの証言映像なども展示した。



1-4 展示

エントランスホールにて開催

1 UR都市機構パネル展 (R5.4.28~5.22)

2 鯉アートのぼり展示 (R.5.5.4~6.5)

3 浪江町・富岡町パネル展 (R5.5.24~9.23)

両町の特定復興再生拠点区域の避難指示解除を踏まえて企画し、解除当日の様子やこれまでの復興の歩みを写真、動画、解説資料、地図で紹介。

4 飯舘村パネル展 (R5.7.8~9.16)

飯舘村の特定復興再生拠点区域の避難指示解除を踏まえ、長泥地区の除染土の再利用、解除当日の様子、復興の現状を紹介。

5 トルコ・シリア地震報道写真展 (R5.7.8~8.7)

読売新聞の関口カメラマンが現地で被災者や遺族を撮影した29枚を展示。



エントランスホールにて開催（続き）

- 6 富岡町内の写真を活用した「写真と俳句展」（R5.9.21～10.13）
- 7 3.11伝承ロードパネル展（R5.10.20～10.30）
- 8 経済産業省「万博・復興企画パネル展」
（R5.10.30～11.26）
「2025年大阪・関西万博」において福島県の被災
12市町村の現状を伝えるパネルの試作品を展示。
- 9 パネル展「振り返る阪神・淡路大震災」
（R6.1.5～2.24）
神戸市の「阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター」
が当館でパネル展を開催した。同センターは毎年、発災日の
1月17日を迎える時期に全国各地で巡回展を開いており、
福島県内では初開催。震災の被害や復旧・復興の状況を
写真やデータでたどるグラフィックパネルや映像を展示。
- 10 「盆踊りの継承」パネル展（R6.3.16～4.15）
双葉郡8町村や飯舘村で復活した盆踊りについて紹介。
被災地のコミュニティ再生と伝統文化の関わりを研究している
葛西常任研究員が企画。



県外展示

11. 神戸出張展「東日本大震災と福島の実験を伝える」

会場：阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター（兵庫県神戸市）

日付：令和5年10月3日（火）～11月26日（日）

帰還困難区域となった場所を示す看板の実物や映像資料等約80点を展示した。



※神戸出張展関連イベントで出張語り部講話

日付：11月5日（日、「津波防災の日」）

「人と防災未来センター」で開催した出張展に合わせ、語り部講話を実施しました。甚大な津波被害を受けた浪江町の請戸小学校出身の当館若手職員と、NPO「富岡町3.11を語る会」の代表が、震災の教訓や原発事故による避難、被災当時の想い、伝え続けることの重要性を伝えた。



県外展示

12. みやぎ津波伝承館出張展

会場：みやぎ東日本大震災津波伝承館（石巻市）

日付：11月5日（日）～11月30日（木）

13. 科学未来館出張展「東日本大震災にみる地球の動きと災害」

会場：日本科学未来館7階（東京都江東区）

日付：1月29日（月）～2月26日（月）

伝承館の40枚のパネルと10点の実物資料を展示に加え、会場のテーマに合わせて東日本大震災を事例に地球の活動がどのような災害を引き起こすのかを紹介した。



14. 消防博物館出張展

会場：消防博物館（東京消防庁消防防災資料センター、東京都新宿区）

日付：2月1日（木）～3月17日（日）

震災から13年の節目に合わせて出張展を開催。消防庁は東京電力福島第一原発事故で建屋への注水を実施する等、震災の被災地で消防・救助活動に関わった。

常設展示の更新

(令和6年2月23日より公開)

1. プロローグシアター：映像に日・英字幕を追加

- ・外国人や聴覚障がい者の方に対するサービスの向上のため英語と日本語の字幕を追加

2. 第4ゾーン：除染、中間貯蔵施設の更新

- ・除去土壌等の中間貯蔵施設への搬入が概ね完了したことをふまえ、除染コーナーを更新



3. 第5ゾーン：福島イノベコーナーの更新

- ・災害対応ロボット「MISORA※」の展示
(※南相馬ロボット産業協議会製作、WRS2020 災害対応部門2位)

- ・イノベ構想関連クイズやパネルの追加



館内定期語り部講話

- ・語り部登録者数：31名（令和5年度）、伝承館スタッフ5名も講演実施
- ・一日4回講演（午前2回1名と午後2回1名が担当）
- R5年度：聴講者数 11,246人（1,220回）
- （参考）R4年度：聴講者数 10,396人（1,212回開催）

【登録者への研修会開催】

- ・第1回 8月18-19日（延べ22名参加）
- ・内容：一般アンケート結果のフィードバック、ワークショップの実施、講義の受講
「福島沿岸のセシウムとトリチウムの動き」（福島大学高田准教授）
「福島県の水産物の放射能汚染の推移と漁業復興の現状と課題」（福島大学和田准教授）
- ・第2回 2月22日（18名参加）
- ・内容：一般アンケート結果のフィードバック
福島第一原子力発電所視察



【特記】

- ・お盆期間は聴講希望者増に対応し研修室（約45席）を使用して開催した。
- ・R6年3月11日に向けて、ワークショップスペースの座席を18席から27席に増席した。

○伝承者育成講座への参加

(令和5年10月、12月、令和6年2月)

県生涯学習課が主催する「ふくしま語り部ネットワーク会議」の「伝承者育成講座」(全3回)に当館の語り部2名が参加した。

○神戸出張展関連イベントで出張語り部講話(令和5年12月)

「人と防災未来センター」で開催した出張展に合わせ、当館の語り部2名が出張講話を実施した。

○パネル展関連イベント「福島で語る、阪神・淡路大震災」

(令和6年1月)

阪神・淡路大震災のパネル展に合わせ、語り部イベントを実施。

1部：兵庫県淡路市(旧北淡町)生まれの米山未来氏の講話

2部：米山氏と当館職員の語り部2名の交流トーク

…震災を伝える意義や、能登半島地震で感じたことなどを語り合った。

○長崎青少年ピースボランティアとの交流(令和6年2月)

長崎青少年ピースボランティアの高校生、大学生、大学院生が来館、展示見学に加え、研修の語り部講話、津波や原発事故による被災地を巡るフィールドワークを受講。ワークショップにおいて当館職員の語り部等と意見交換を行った。



神戸出張展での出張語り部講話
(人と防災未来センター)



阪神・淡路大震災語り部との交流イベント(伝承館)



長崎青少年ボランティアとのワークショップ
(伝承館)

一般研修

展示見学に加えて、下記プログラムを組み合わせた「一般研修」を実施。

※ 福島県観光物産交流協会との共同事業

<プログラム>

- ・研修語り部講話（被災体験の講話 40分）
- ・フィールドワーク（双葉、浪江町内を巡る 60分）
- ・ワークショップ（研修の振り返り 60分）

<参加者数>

令和5年度 351団体 13,955人
開館後累計：867団体 38,292人

（参考）令和4年度 280団体 11,475人

▽令和5年度 内訳

学校関係 108団体 7,863人
その他団体 243団体 6,092人



語り部講話



フィールドワーク

専門研修

- ・館長及び上級研究員が講師となり、復興や防災に関する専門研修のプログラムを実施
- ・今年度は、館長及び上級研究員による「専門講座」に加え、上級研究員の企画に基づく研修プログラムを実施。

<専門講座>

利用者の希望に基づき、館長、上級研究員の専門分野に関する90分の講義を実施。

【募集期間】 令和5年5月8日～12月28日

【実績】 9団体、参加者184名

【実施講座一覧】

○ 高村館長「放射線被ばくと健康影響、リスクコミュニケーション」

- ・立命館慶祥高校（26名）、白河高校（22名）、安積高校（21名）、事業者団体（11名）

○ 安田上級研究員「原子力防災と放射線」

- ・政策研究大学院大（15名）

○ 開沼上級研究員

「福島復興・廃炉の社会科学、ボードゲーム型復興・廃炉体験で学ぶ福島学」

- ・成城高校（20名）、筑波大学附属駒場中・高+灘中・高+成城学園中・高（47名）、白河実業高校（14名）、県国際交流協会（8名）



<上級研究員の企画に基づく研修プログラム>

【自治体職員向け原子力研修】 ※(一財)日本原子力文化財団との共催

- ・ 令和6年2月26日(月)～27日(火)
- ・ 場所：伝承館、福島市・参加者：42名
- ・ 北海道庁、青森県佐井村、鹿児島県薩摩川内市など原発立地20自治体から参加

▽プログラム

- 1日目(伝承館) 伝承館見学、フィールドワーク、語り部講話
- 2日目(福島市) 高村館長、安田上級研究員の講演

【福島学カレッジ】

- ・ 開沼上級研究者らが講師となり、中高生を対象に、「福島の研究」を体験する実践型プログラム
- ・ 県内外より13組16名が参加
- ・ 令和5年12月2日～令和6年1月21日の期間に全4回にわたり開催

▽プログラム

【第1回】12/2(土)、3(日)「自分の関心を可視化しよう」

場所：双葉町産業交流センター等

開講式&オリエンテーション：関心可視化ワークショップ、展示見学

【第2回】12/9(土)、10(日)「誰にだって研究はできる」場所：伝承館等

リサーチとは？：研究事例紹介、KJ法等基本的な研究手法の演習、

研究計画作成ワークショップ、ミニフィールドワーク

【第3回】12/26(火)、27(水)、28(木)「福島研究の最先端に飛び込む」

場所：都内等

東京研修：東京大学の研究者・霞が関等でのフィールドワーク・ワークショップ

【第4回】1/20(土)、21(日)「これであなたも研究者」場所：伝承館等

報告会：報告準備&プレゼンテーション&フィードバック&修了式



○調査・研究体制

- ・館長及び上級研究員3名に加え、2023年4月より常任研究員5名体制で研究活動を実施。
- ・客員研究員24名を委嘱し、館長及び上級研究員が研究班での研究を継続。

【活動実績】

○常任研究員による研究実績

- ・学術論文 4件、口頭発表 23件、講演・講義 16件、外部資金獲得 2件、その他（取材等）29件

○福島県環境創造センター成果報告会への参加（R5.10.3）

- ・高村館長の基調講演、常任研究員のポスター発表

○常任研究員の企画による「盆踊りの継承パネル展」の実施（R6.3.16～）

- ・被災地のコミュニティ再生と伝統文化の関わりを研究している葛西常任研究員の企画。
- ・双葉郡8町村や飯舘村で復活した盆踊りについて紹介。



○伝承館調査・研究部門活動報告会（R6.3.18） （会場：コラッセふくしま）

- ・館長、上級研究員及び常任研究員が活動内容を報告した。



発表者	内容
高村館長	福島における環境放射能、放射線リスクコミュニケーションとリスク認知の変遷
安田上級研究員	東日本大震災・原子力災害における放射線防護対策の検証～次の世代に伝承すべきこと～
関谷上級研究員	学術交流活動、処理水問題、関東大震災（災害教訓の継承）、能登半島地震
開沼上級研究員	点を線でつなげるために（福島学カレッジ、東大共同研究「帰還困難区域のまちづくり」など）
葛西常任研究員	復興過程におけるコミュニティの生成と継承
静間常任研究員	広域避難者への情報支援に関する研究、伝承館来館者に関する研究
山田常任研究員	震災伝承活動の実態と継続的なあり方への調査
大杉常任研究員	福島第一原子力発電所の廃炉と放射性廃棄物の課題に関する研究

1-7 調査・研究

○東日本大震災・原子力災害 第2回学術研究集会（R6.3.19-3.20） （会場：コラッセふくしま）

- ・東日本大震災と原子力災害の研究者等の学術交流と情報交換の場を提供。
- ・放射線影響、コミュニケーション、行政対応、コミュニティ、産業といった伝承館の幅広い調査・研究分野に関する研究発表が行われた。発表89件、約200人参加。



○福島国際研究教育機構（F-REI）の公募事業への参加

- ・F-REIの第5分野（原子力災害に関するデータや知見の集積・発信）において、長崎大学、東京大学が代表機関となる研究事業に伝承館（イノベ機構）が共同研究機関として参加。（F-REIの本格的な事業実施は令和6年度からの予定）

1 鯉アートのぼり展示 (R5.5.4~6.5)



2 セタイイベント (R5.6.14~7.10)

館内に竹を設置し、来館者がメッセージを記した短冊を飾り付けた。
6月26日には浪江町立なみえ創成小学校の児童を招いた。

※セタイイベント関連イベント

7月8日(土)、9日(日)には、浪江消防署の協力で関連イベントを開催。起震車体験、消防士体験、消防車両の展示などを行い、2日間合わせて200名近くの方がブースを訪れた。



3 常磐線沿線舞台芸術祭「日没を祭れ2023」 (R5.8.5)

詩人和合亮一氏と書道家千葉清藍氏らによるアートパフォーマンスや、100名を超える混声合唱団の演奏会が開催された。



4 開館3周年 防災イベント「ふくしま防災・伝承パーク」(R5.9.24)

福島県と連携した防災イベント「ふくしま防災・伝承パーク」を開催した。非常食の試食体験、防災レンジャーショーなどを通じ、防災を見つめ直す機会を提供。国際的に活躍する海外音楽家4名によるコンサートも開催。



5 Out of KidZania in ふくしま相双2023

「伝承館アテンダントの仕事」(R5.9.30~10.1)

相双地方振興局主催のイベントにサブメイン会場として協力。伝承館での職業体験には小学4年~中学2年生7人が参加した。震災と原子力災害を後世に伝え、防災につなげるという当館の役割を理解し接客する「アテンダントの仕事」に取り組んだ。



6 チェルレウム・マーレ伝承館コンサート (R5.11.6)

ア・カペラ、宗教曲を中心に幅広いレパートリーを持ち、東日本大震災後は福島県の子どもたちのためのプログラム、川内村などを支援するチャリティーコンサートを行っている団体が神戸市から来訪し、声楽アンサンブルコンサートを開催。



7 請戸小学校のピアノでコンサート (R5.11.26)

浪江町の震災遺構「請戸小学校」のピアノを同町出身のピアニスト吉田昂城（こうき）さんが演奏するコンサートが開かれた。震災後、錆により劣化していた弦を張り替えた後の最初の演奏会となった。



8 3.11メモリアルイベント (R6.3.11)

○本年度の企画展「人が語る原子力災害」で証言などを展示している俳優の横田龍儀さん、富田望生さんが来館し、トークセッションにそれぞれ登壇した。

○台北フィル楽団員による弦楽四重奏コンサートの開催

○当館職員の語り部（浪江町立請戸小学校出身）が、構成劇「請戸小学校物語」に出演。津波避難の状況や教訓を伝え、同じステージで双葉町出身の箏奏者・大川義秋さんらと共演した。

○追悼花火の打ち上げ、キャンドルナイト等を実施。



(3) イベントへの出展

県内外の防災イベント・風評払拭イベントに出展し、伝承館のPRと福島の正確な情報を発信。

○「ふくしまフェスタin 豊洲」(R5.7.22)

三井不動産の協力を得て福島県広報課が主催する風評払拭イベントに出展。

○「ぼうさいこくたい2023」(9.17~18)

内閣府などが主催する日本最大級の防災イベント。今年の会場は横浜国立大学。伝承館は昨年に続き出展を行った。

○ふくしままるごとフェア(9.22~24)

福島県風評風化戦略室主催する東京・有楽町駅前でのイベントに出展。

○「そなえるふくしま2023」(9.23)

福島県危機管理課が主催する防災イベント。ビッグパレットふくしまに出展。

○神田外語大学(10.21~10.22)

福島県と連携協定を結んでいる神田外語大学(千葉県・千葉市)の学園祭に出展。神田外語大学は学生の探求学習に伝承館を活用している。

○チャレンジふくしまフォーラムin長崎(12.1)

福島県広報課主催のイベントに高村館長登壇・伝承館パネル展示。

○「ふくしまフェスタin ららぽーと横浜」(R6.2.17)

三井不動産の協力を得て福島県が主催する風評払拭イベントに出展。



チャレンジふくしまフォーラムin長崎



ふくしまフェスタin ららぽーと横浜

(4) 誘客活動

- 学校・旅行代理店・行政等への認知度向上と利用促進
- 事故やトラブルの防止に努め満足度向上と継続利用への取組
- 関係団体との連携強化により、プロモーションを展開

【誘客活動実績】

▽令和5年度 **786箇所**

※学校・教育関連、旅行代理店等を対象とした館内斡旋、訪問営業、商談会参加など

【関係団体との連携】

- ・観光物産交流協会(観物協)の会員資格取得 (6月)
- ・観物協委員会 (国際観光推進、教育旅行推進) の各委員に伝承館職員を選任 (6月)
- ・東北教育旅行セミナー・商談会参加 (北海道、東京、大阪、福岡)
- ・観物協主催セールスキャラバン参加 (インバウンド関係)
- ・県と連携してモニターツアー実施 (8月)
- ・ツーリズムEXPO・観物協ホープツーリズムブース参加 (10月：大阪)
- ・観物協教育旅行キャラバン参加 (12月：東京都)

-
- ・いわきFCと連携しホームゲーム観戦チケットによる入館料割引を実施 (4月～)
 - ・アクアマリンふくしまと入館料相互割引実施 (7月～)
 - ・Jヴィレッジと相互優待を実施 (8月～)
 - ・福島ファイヤーボンズと連携し入館料割引実施(8月～)

○政府、自治体、海外から様々な要人が当館を視察。

①政府関係者	17件	132人	
②海外要人等	13件	132人	
②地方自治体関係者	8件	138人	
④民間企業幹部等	19件	202人	
合計	57件	604人	(随行者含む)



R5.4.18 ドイツ環境大臣



R5.4.27 フランスHCTISN委員長



R5.5.10 IAEA

1-11 収益事業

○来館者のサービス及び収益向上を目的に、防災グッズ等を販売。

▶R5年度販売実績 1,960千円 (R4年度 2,012千円、R3年度 1,727千円)

●販売品目

- ・シャツ ・ブルゾン ・防災対策ボトル5点セット
- ・防災手ぬぐい ・防水ポーチ入りアルミブランケット
- ・8町村キャラクタクリアファイル、ガチャ
- ・避難のころえんぴつ ・オリジナルガイドブック

●販売書籍

- ・ぼくのうまれたところふくしま
- ・福島民報社震災写真集 (受託販売)
- ・きぼうのとり (受託販売)
- ・空飛ぶクルマ (受託販売、2月終了)
- ・福島民友新聞社 証言あの時 (受託販売)

○伝承館外での販売

▶Jヴィレッジ、磐梯山噴火記念館、岩瀬書店

【令和5年度の動き】

▶缶バッジ販売開始 (令和5年9月)



館内のグッズ販売コーナー